

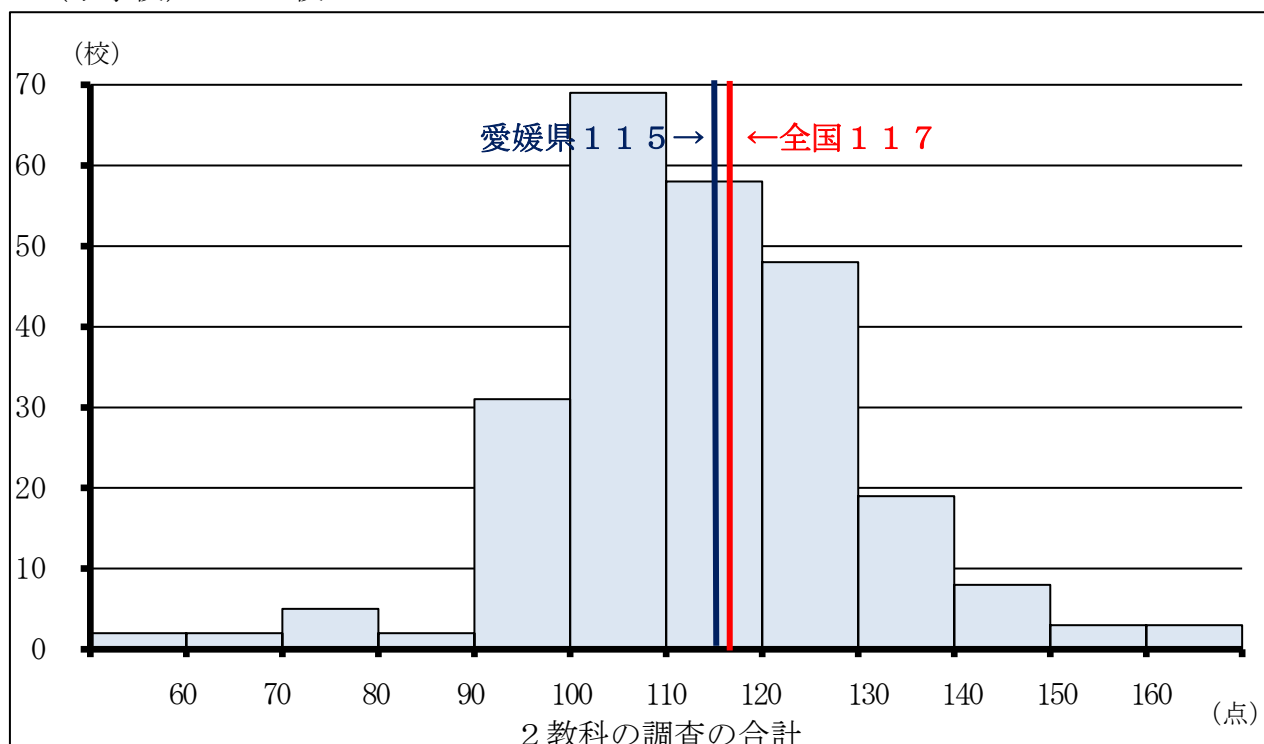
令和 8 年度 全国学力・学習状況調査（教科に関する調査） 学校別平均正答率、平均 IRT スコアの分布

【グラフの見方】

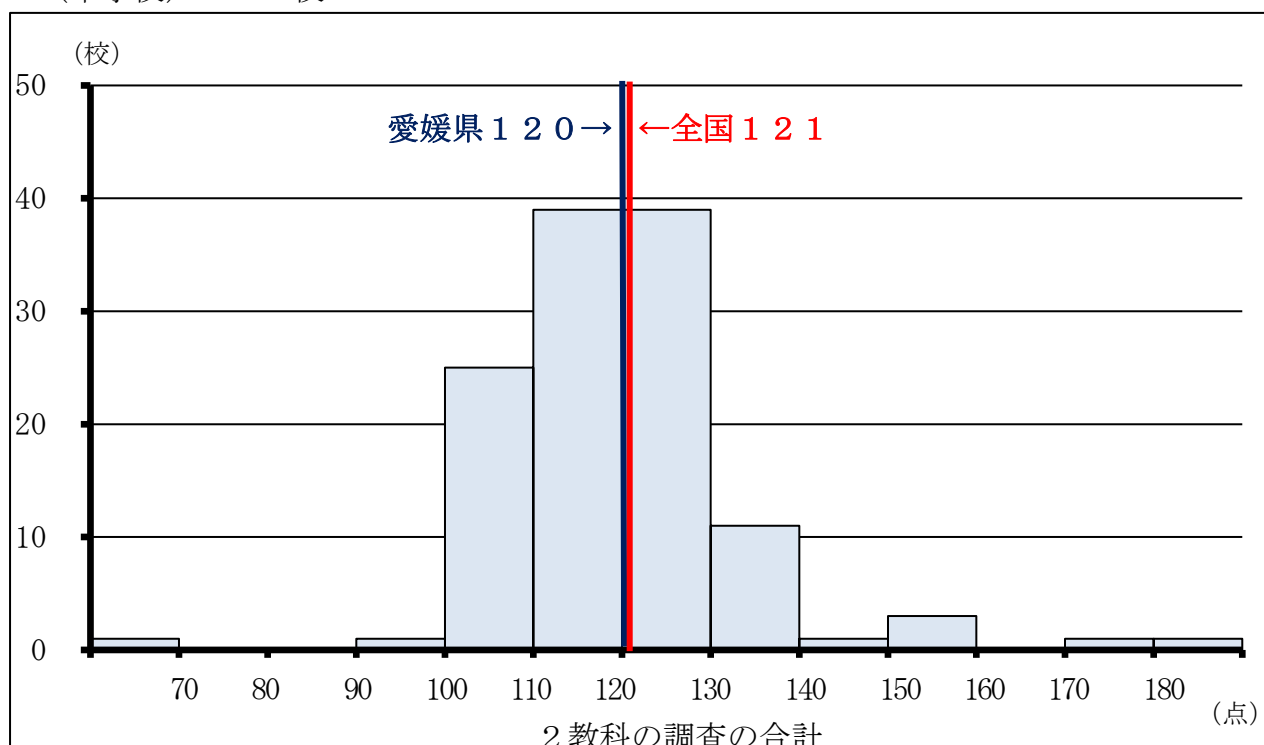
- 下のグラフは、学校ごとに小学校 2 教科、中学校 2 教科の調査の正答率を合計し分布を表したものです。正答率は、正答した問題数の割合を百分率（％）で表しており、100 点満点に置き換えて考えることもできます。

校種 \ 教科	国語	算数・数学	合計
小学校	100	100	200
中学校	100	100	200

（小学校） 250 校



（中学校） 122 校



【グラフの見方】

○ 下のグラフは、学校ごとに中学校英語調査の平均 I R T スコアの分布を表したものです。I R T スコアとは、項目反応理論と呼ばれる統計理論に基づいて、各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。

- ・ I R T では、従来のように、全ての生徒が同一の問題セットに一斉に解答し、その正答数から正答率を算出する方式とは異なり、複数の問題セットが用意され、個々の生徒が異なる問題セットに解答しても、学力スコアを推定することができる。
- ・ I R T を導入する年の全国平均を基準値とし、経年比較が可能となる。

(中学校) 122校

